

■石の風ぐるまと新たなまちづくり

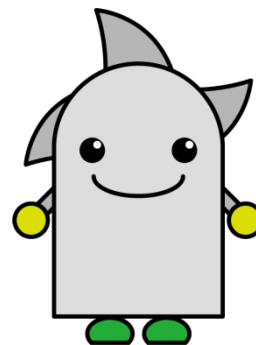
「石の風ぐるま」は高知県在住の彫刻家、門脇おさむ（かどわき おさむ）氏の製作によるもので、7基の風ぐるまの高さは約5.5m、羽は全部で18個あり、石と風を結びつけたユニークな彫刻作品です。

この石の風ぐるまが並ぶ芝生広場「風の舞台」は背景の大平山（おおひらやま）や権現山（ごんげんやま）の山並みとも調和した壮大な芸術作品であり、自然と人為との見事な調和を見ることができます。「風の舞台～石の風ぐるま」は、平成9年度建設省主宰の手づくり郷土賞を受賞しました。

風の舞台のあるうかん常山公園は平成9年の岡山自動車道の開通とともに整備され、この自動車道の開通により日本海と太平洋が一本の高速道路で結ばれ、「風をあつめ 風をおこす」をキャッチフレーズに交流をテーマとした新たなまちづくりがはじまりました。

門脇おさむ氏の石の風ぐるまは、平成2年に高知県四万十町（旧大正町）に、平成6年に熊本県山鹿市（旧鹿本町）にも設置されており、平成11年11月11日にうかん常山公園で三町による「風ぐるま姉妹提携」の調印式が行われました。この三町の交流は高梁市でも引き継がれ、現在も友好都市交流を行っています。

※門脇おさむ氏による石の風ぐるまは、有漢スポーツパーク内グラウンドゴルフ場にも1基設置されています。また、有漢スポーツ内の農村公園には同氏の芸術作品として、石のすべり台、石のシーソー、石の万華鏡などの「石の遊具」が設置されており、実際に遊具として利用されています。



有漢町観光協会認定
観光大使 かざぐるまくん